

医師としての精神

この度はこのような機会をいただき、ありがとうございます。白衣に袖を通し、憧れだった医師として、このJCHO九州病院での初期研修が始まって早くも1年が経とうとしています。思い返せばこの1年間は本当に仕事一色の日々でした。急性期病院ということもあり、容体の変化の多い患者も多く担当させていただきました。研修医といえども、一医師として責任をもって担当させていただけるこの病院では業務で日付を越えることや休日を忘れて仕事をすることも珍しくはありませんでした。私は長崎大学医学科の出身ですが、日本での西洋医学の始まりの地ということもあり、在学中にはよく西洋医学の父ポンペ・ヴァン・メーデルフォールト

JCHO九州病院 ^{しらい}白井 ^かさや香

の残した「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい」という言葉を耳にしたものです。研修医となった現在、この言葉を身をもって感じているところです。この初期研修期間に育んだ医師としての精神は、これからの私の医師人生の中できっと私を支えてくれると思います。この病院で研修ができるのもあと数ヶ月間となってしまいましたが、最後までやり抜き、吸収できるものは吸収して日々精進していきたいと思っています。ありがとうございました。